

平成27年4月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成27年4月21日 (火)		
2 開会及び閉会	開会	14時03分	
	閉会	15時10分	
3 出席委員	委員長	曾田佳代子	
	委員	東條光彦	
	委員	奥津晋	
	委員	塩田澄子	
	委員(教育長)	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	渡辺和夫	教育次長	植田朋哉
統括審議監(企画調整担当)	佐々木辰昭	審議監(学校教育担当)	天野和弘
審議監(就学担当) (就学課長事務取扱)	逸見司臣	審議監(保健体育担当) (保健体育課長事務取扱)	長畑智
審議監(美術館担当) (オリエント美術館長事務取扱)	景山泰	教育企画総務課長	赤野政治
指導課長	岡林敏隆	指導課教育支援担当課長	松浦敏之
保健体育課課長代理	泉利絵	生涯学習課長	安信卓
文化財課長	乗岡実	こども企画総務課課長代理	青木須賀子
地域子育て支援課課長補佐	溝手得三郎		
事務局(教育企画総務課主査)	生田裕宣	事務局(教育企画総務課副主査)	黒住亜紀子
5 議題及び結果			
第19号議案 岡山市教育振興基本計画平成27年度アクションプランの決定について 原案可決			
6 教育長等の報告 [平成27年3月14日(土)～平成27年4月10日(金)]			
3/14	防災教育フォーラム	こども企画総務課	
3/19	第1回岡山市問題行動等対策委員会	指導課	
3/26～31	岡山市子ども会ジュニアリーダー研修会"	こども企画総務課	
3/27～31	岡山市子ども会インリーダー研修会	こども企画総務課	
3/30	ジュニアオーケストラ創立50周年記念演奏会	こども企画総務課	
3/31	ジュニアオーケストラ創立50周年記念祝賀会・卒団式	こども企画総務課	

塩田委員	○ 1 番の防災教育フォーラムについてであるが、どういうことが行われたかということと、それから対象が希望者というふうになっているが、どういった方が来られたかということの説明願いたい。
委員長 溝手地域子育て支援課課長補佐	○ こども企画総務課、説明を。 ○ 本年度から地域子育て支援課に事業が移っているので、当課が説明をする。なお、これは26年3月の事業報告なので、事業報告の担当課はこども企画総務課となっている。
委員長 渡辺教育次長 溝手地域子育て支援課課長補佐	○ 参加者は96名。来られた方は主に地域住民や行政の関係や学校の関係者ということになっている。内容は、まず公民館のほうの実行委員の方が成果を発表されたり、アドバイザーの方が広島の土砂災害からの教訓など講演をしてくださったりした。
委員長 渡辺教育次長 溝手地域子育て支援課課長補佐	○ 事業報告では参加者は120名であるが、96名に変わるということか。 ○ 公民館も入れたら120ということか。 ○ そうである。
委員長 溝手地域子育て支援課課長補佐	○ 総数は120で合っているということによいか。 ○ よい。
塩田委員	○ 基本的には公民館の関係者の方がお聞きになるのかと思ったのだが、そうではなくてほとんどが希望者の方たちという解釈によいか。
溝手地域子育て支援課課長補佐	○ そうである。
塩田委員	○ 広報とかはどのような形で、大体何人ぐらい集まられることを予想していたのか。
溝手地域子育て支援課課長補佐	○ チラシを公民館などを中心に配り、申込書をこちらに出していただく。申込書を出していただいた方に来ていただいて、あと公民館の関係者、事務担当者とかはもちろん別であるが、そのような形で対応している。
委員長	○ これは、参加型なのか。聞くという形のフォーラムなのか。何か参加型の取組があるような形であったか。
溝手地域子育て支援課課長補佐	○ プログラムの紹介をここではしているが、何かここでやったというようなことはちょっと聞いていないが、こういうプログラムがあるよということをいろいろな形で紹介をしていただいているということで、あとはプログラムの紹介をリーダーの方にしていただくというようなことをしている。
教育長	○ これまで年間の中で何回かそれぞれ公民館の中でやって、地域ごとに防災キャンプをやってきているので、最終的にここにまとめた中でどんなことをそれぞれがやったかということを発表し合う場ではないのか。
溝手地域子育て支援課課長補佐	○ そうである。
教育長	○ 今年初めてではなく何回か、去年もしたろう。
溝手地域子育て支援課課長補佐	○ フォーラムは去年もやった。
教育長	○ 去年は何か文部科学省の人が来ていたようだが、今年は来ていないのか。
溝手地域子育て支援課課長補佐	○ 参加者のリストにはその方は出ていない。
委員長	○ 私もジュニアオーケストラ創立50周年記念演奏会へ行った。岡山市にこういう文化的な子どもたちを育てる機能があるということは、すごくいいことなので、ぜひ今後とも広報をしっかりと子どもたちを育てていきたいという感じを持った。
奥津委員	○ 非常にレベルが高いと思ったし、OBの方がいらっしゃっていて、結構世界で活躍されているような方もそこで演奏されたりして、着実に歴史が育まれていっているんだなというふうにも思った。ただ、前の日にこのコンサートがあり、翌日のお昼に祝賀会。しかもどちらも平日だったというのが、いま一つバランスを欠いていたのではないかという気がした。会場の問題か。
教育長	○ 例年この日曜日の3時から5時半ぐらいまでやっていたが、今回シンフォニーホールが押さえられなかったので分けてしまったと聞いた。45周年のときは、終わってすぐ近くのところで簡単なレセプションみたいなことをやった。今回は、卒団式もレセプションも次の日にやっちゃっている。

<p>奥津委員 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 春休みとはいうものの、小学3、4年生ぐらいの子どもが、9時ぐらいまで参加するというのはどうだろうか。 ○ 私も運営委員の一人になっているので、その辺の運営については、また少しお知らせをしておきたいと思う。
---------------------	---

7 議事の概要

<p>委員長 委員長 全委員 委員長 全委員 委員長 全委員 委員長 委員長 教育企画総務課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4月定例岡山市教育委員会を開催する。 ○ 本日の傍聴希望者は2名。入室してもらってよいか。 ○ <承認> ○ 日程第1、会期は本日1日限りとしてよいか。 ○ <承認> ○ 日程第2、3月定例会の議事録に問題はないか。 ○ <承認> ○ 日程第3、教育長等の報告、事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載) ○ 日程第4、報告議案について説明願う。 ○ 平成27年度の教育振興基本計画アクションプラン(案)について説明する。 アクションプランは、岡山市教育振興基本計画に基づく単年度の事業計画となっている。27年度のアクションプランは、昨年までの構成を基本としながらも、内部評価委員や教育委員の皆様からいただいた意見を踏まえ、主に4つの点から変更している。 ○ 1つ目、岡山市の教育が目指す子ども像を最初の部分に提示した。 2つ目、重点的かつ施策横断的に取り組む事業を示したクローズアップと教育振興基本計画の6つの政策との関係がわかるようにした。 3つ目、クローズアップの項では、現状と課題を踏まえて各取組がなされていることを図式化した。 4つ目、事業ごとのアウトプット指標の設定や目標値の設定について、その妥当性を検討し、既に目標値を上回っている指標については、一部目標の上方修正等を行っている。 ○ 平成27年度アクションプラン(案)についての資料をごらんいただきたい。 ご意見を反映した点や変更点を中心に説明する。 1ページをお開きいただきたい。 まず、岡山市の教育が目指している人づくりのイメージ図を掲げ、目指す子ども像をイメージした。また、人権尊重の理念に基づいて、全ての教育行政を実施していくことを示した。 3と4ページをお開きいただきたい。 施策・事業体系図で、星印が新規事業を示している。 政策3の2、スーパー食育スクール事業における成果の普及事業、政策5の2、みんなで集める情報たから箱事業、政策6の3、学校業務アシスト事業、政策6の3、部活動サポート事業の4事業が新規事業となっている。 また、政策2の1、「岡山っ子」学力向上推進事業、これはこれまでの学力向上を目指す事業の中核であった中学校区ではぐくむ!学力アップ事業の内容を大きくリニューアルし、新たな細事業を含めて実施しようとするものである。 なお、このリストから外した事業もある。ESD関連図書等整備事業、これは岡山市立図書館全館へのESDコーナー設置という目標が達成され、日常的な業務の一つとなったために外した。 スポーツ振興課の岡山市スポーツ少年団育成事業についても、機構改革により今年度から市民局に移管されたため掲載していない。 また、機構改革のため担当課の変更がある。これまで子ども企画総務課が担当していた事業は、全て地域子育て支援課が担当するようになった。事業名な
---	---

どに地域の地、子育ての子、地子と示している。

4 ページ下の枠内に事業群の説明があるが、新たに教職員サポートプロジェクトを追加している。教職員の負担を少しでも軽くしていくことで、教職員が子どもと向き合う時間や教材研究を行う時間の確保を目指すものである。

次に、5 ページをお開きいただきたい。

クローズアップについてであるが、クローズアップには、27年度の事業の中から重点的かつ施策横断的に取り組む事業を上げている。教育課題別に政策や施策の枠を超えて複数の事業がどのように連携して取り組んでいるのかがわかるように示している。全ての事業は、市民協働、人権尊重という2つの理念と岡山型一貫教育、地域協働学校という2つの柱に基づき実施していることを明示した。そして、今回クローズアップと6つの政策との関係について説明したものを新しく追加している。各テーマごとの喫緊の教育課題を解決するために、岡山市教育振興基本計画の6つのどの政策とかかわる事業を連携させながら重点的に取り組んでいくのかを示している。

なお、それぞれのテーマの課題解決に向けては、クローズアップ以外の事業も連携させながら横断的な取組を実施していく。

6 ページからは、テーマ別に見開きの左のページに現状と課題を、右のページに重点的に取り組む事業を掲載し、どのような状況、背景を受けてその取組が重点的に行われるのかがわかるようにした。

6 ページ、7 ページをお開きいただきたい。

1、学力向上への取組の推進についてであるが、学力向上に関する課題を授業力、家庭学習、個別支援、かかわりという観点で分類、整理し、それぞれ側面からの課題解決の取組を右半分に掲げた。事業名の頭に（拡）とついているものは拡充する事業、（新）とついているものは新規事業であり、これを中心に説明させていただく。

拡充して実施する「岡山っ子」学力向上推進事業は、今年度の目玉の事業である。岡山っ子学力向上推進チームを新設し、徹底をキーワードにした全校全員で行う取組を推進していく。あわせて、指導教諭による授業公開や先進地の好取組に学ぶといった取組などにより、教師の授業力を向上させることで、子どもたちの学力向上を目指していく。

また、新規の学校業務アシスト事業、部活動サポート事業についても、今年度の目玉の事業である。教職員の負担を少しでも軽くすることで、教職員が子どもと向き合う時間や教材研究を行う時間の確保を目指していく。

8 ページ、9 ページをお開きいただきたい。

2、学校問題の未然防止・早期解決についてである。

不登校や暴力行為、いじめについては、改善の兆しをつかみつつも加速度的な解決には至っていない。したがって、これまで行ってきた未然防止、早期発見・早期対応、深刻化防止といった観点からの取組をさらに充実させていくことが課題であると考えている。

拡充して実施するスクールカウンセラー配置事業では、早期相談支援体制の充実を図るため、昨年度よりもさらに拡充し、小学校への配置を増やしていく。

また、同じく拡充して実施する問題行動等対策事業では、昨年8月に策定した岡山市いじめ等の問題行動及び不登校の防止に関する基本方針に基づき附属機関を設置し、いじめの防止等の対策を実効的に行うための審議や学校におけるいじめの重大事態への対処を行っていく。

10、11 ページをお開きいただきたい。

3、ESDの推進についてである。

ESDの推進については、成功裏に終わったESDに関するユネスコ世界会議サイドイベント公民館－CLC国際会議の成果をいかに継続、普及させていくかが課題と考えている。また、昨年文部科学省から指定を受けて取り組んだ食育の研究実践についても、今後持続発展的な広がりを図ることが求められて

いる。今年度拡充して実施するユネスコスクール推進事業では、市立全校でのE S Dの取組の充実、発展を図ることができるようE S D研修会を実施するとともに、E S D推進拠点であるユネスコスクール間の交流を推進していく。新規に実施するスーパー食育スクール事業における成果の普及事業では、スーパー食育スクール事業で得られた成果をもとに、身体測定やヘモグロビン測定の数値など、客観的指標を用いた食育を推進していく。

1 2ページ、1 3ページをお開きいただきたい。

4、安全・安心の教育環境づくりについては、耐震化を軸に継続、拡充が課題となる。学校園耐震改修整備事業や公民館耐震改修整備事業を拡充して実施することにより、大規模災害時における児童生徒や市民の生命の危険を回避するための安全・安心な学校づくりや教育環境の向上を図っていく。

操山地区公民館建設事業では、平成3 0年度の開館を目指して拡充し、地域の学びの場となるよう整備していく。

また、拡充して実施するI C Tを基盤とする情報活用能力アップ事業では、さらなる校務の効率化により子どもと向き合う時間をより多く確保できるよう校務支援システムの成績関連機能の稼働を開始する。

次に、1 4ページからの事業一覧についてであるが、事業の指標の設定や目標値の設定について、その妥当性を検討した。その事業だけで目標を達成することができない指標については、その内容を見直し、その事業だけで事業の達成状況を把握することができる指標に変更した。

また、昨年度のアクションプランでは、平成2 7年度末目標値を示し、教育振興基本計画の第1次前期計画の終期の目標値がわかるようにしたが、進捗状況を踏まえ、今年度目標値を上方修正した事業がある。その事業については、修正前と修正後を上下段で併記するようにした。

裏表紙に参考をつけている。政策及び施策の成果指標の現状値と目標値を一覧に示している。今回、平成2 6年度実績値を新たに掲載している。

- 今回、本アクションプラン（案）をご審議いただき決定された後に、6月議会で報告する予定としている。
- 以上で説明を終わる。ご審議よろしく願います。
- 前回の協議会でも少し内容に触れ、その時の変更点をこの中に配慮させてくれているようである。アクションプランは、今日、一応議決ということになるか。
- 質問、意見はないか。
- 確認だが、1 3ページに示されている公民館等の整備事業に関してであるが、（拡）と書いてあるので、これは扱いとしては拡充という扱いになっているのだろう。操山地区公民館の建設事業とか、それから公民館の耐震改修整備事業に関しては拡充になっていて、吉備公民館に関してはそうっていない。こういう事業は継続事業で、継続しているものに関して拡充したかどうかという、どこを見たら分かるのか。予算上増えているからという理解でいいのか。
- 予算上でこの部分は拡充があるかどうかということで判断している。
- 素人目に見ると、もう長い年月をかけてやるもので、粛々と進んでいるものなので、拡充と言わなくてもいいのかなと思ったりしていたのだが、実務的にちゃんと進んでいるということなので、それはそれでいいと思うが。
- 耐震改修のほうは、昨年度で耐震診断が終わり、今度設計のほうに入るということで若干レベルが上がっておるということで考えている。それから、操山公民館のほうも基本構想まで進んで、今度実施計画をつくるということで、ここも少しランクが上がっているということで拡充という判断をさせていただいている、もちろんこれは予算が伴うものであるので、予算を伴ってということではあるが、中身が少し前に行ってるという。吉備公民館のほうは、もう工事に入っているので、そのまま進んでいるということで拡充をつけていない。そういうことでご理解をいただきたいと思う。

委員長

東條委員

教育企画総務課長
東條委員

渡辺教育次長

東條委員 渡辺教育次長 東條委員 委員長 渡辺教育次長 委員長	○ 進んでいますよということなのか。 ○ そうである。 ○ わかった。 ○ 予算と中身と両方がないと拡充にはならないと。 ○ 中身である。
教育長	○ 5ページは、重点的と横断的というふうなことを、説明できているので、これを学校園に示すときには、中心的にここを示してもわかりやすいのかなという感じがする。もちろん各事業はあるが。とてもわかりやすくなったと思うが。
委員長	○ 前にやったのもいろいろ見方としてはよかったところがあるのだが、ご指摘にもあった、何かその1番なら1番のところは薄まって見える。それを解決できないかと工夫して、文章表現を使ったが、かえってそのところはわかりにくくなったかもしれない。
奥津委員	○ アクションプランが単年度のプランということで、強調するところは前回のもわかりやすかったが、少しそれでは現場や市民の皆様には誤解を招くともあったようで、こういうふうに修正してくださっている。いかがか。
指導課教育支援担当課長	○ 31ページの、ストップ・ザ学校問題のスクールカウンセラー配置事業のところで、目標値とか実績値という形で、目標値が7,500件、実績値が7,946件とあるのは、例えば目標値というのは相談の件数が目標値というの何か、ないにこしたことはないが、相談するものはできるだけ吸い上げてくれたら、適宜対応しなくてはいけないという意味なのだろうが。どちらかというとなじまないことかなと思いつつも、何かでも値をつけなければいけないからつけているのかなと思う。目標値とか実績値というのは、どういう考えというか、目標値の設定等はどのようなふうな考え方から来ているのか。
奥津委員 委員長	○ 実績値をもとに、さらにカウンセラーが増えるので、その増えた分を勘案して目標値を考えているということである。 ○ それでも実績値より減っている。
指導課教育支援担当課長	○ 奥津委員は、多分アウトプットとアウトカムの関係も聞きたかったのではないか。相談件数が、指標にアウトプットでなじむのかどうかということが。目標値を立てた時点では、ここでも一応協議したわけであるが、こういうふうに数字の推移がわかると、ちょっと違和感があるなということだろうと思う。
奥津委員 指導課教育支援担当課長	○ 目標値を立てた段階ではこの実績値はわかっていなかったもので、ここまでは相談があると思っていなかったということだと思ふ。また、スクールカウンセラーのアウトプットとして何がふさわしいかということであるが、事案の対処率とか、そういうことがわかればそういった数値も望ましいと思うが、実際に解消したかどうかというのなかなかわかりにくいところで、今回は相談件数をアウトプットとして挙げさせていただいているということである。
東條委員 委員長	○ 集計してみたら思ったよりも数が多かったということか。 ○ そうである。
指導課教育支援担当課長 委員長	○ それでは、このような数値でいいのかという感じになるが。 ○ 目標値になるかどうか。今の単純なアウトプット、例えば小学校へのカウンセラー事業が拡充していくに当たって、それを目標値にするとかというのは、そういうことは不自然なのか。予算を伴うことにはなるが。
指導課教育支援担当課長	○ 配置校の数をということか。 ○ カウンセラーの人数をアウトプットとして、何校配置とか何人配置とか。予算を伴うので、すぐには答えにくいとは思ふが。アウトプット指標としてはなじむかなじまないかの感想だけ教えていただきたい。
委員長	○ 今の取組としては、配置校というのは予算が確定するともう何校と決まるので、目標値としてはなじまないという考えでやっている。 ○ 予算獲得の努力をするという数値もあるのだろう。今年度はこの件数で出ているが、現実とは少し違っていたという声が出た。今後の検討課題である。相

<p>奥津委員</p>	<p>談を多くしてくれたほうがいいだろうが、それはハッピーなことではないかもしれないし。だから指標としてどうかというのは、今後の検討である。</p> <p>○ ただ、数は増やすわけであるから、やはり実績値よりも下がるのはどうかという気はするが。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ そこだろう。配置校が増えて人数も増える。そうなると、やはり相談件数が今までの傾向で見れば増えるのではないかということ。</p>
<p>指導課教育支援担当課長</p>	<p>○ この目標値については、これから修正できるということであれば修正を検討する。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 教育企画総務課長、今日議決するとしても、目標値をこういうふうに変えて修正するということは可能か。</p>
<p>教育企画総務課長</p>	<p>○ 修正ということを知っていただければ、あとはこちらで変えさせていただく。その結果はまたお知らせする。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 委員の皆様方、奥津委員から少しご質問があったが、この相談件数の目標値についてどのように考えたらいいかというのを。東條委員、いかがか。</p>
<p>東條委員</p>	<p>○ 今、奥津委員もおっしゃったが、数が増えて配置校も増えるのだから、普通に考えると実績が増えるというふう考えたほうが自然なので、どのくらいの値がいいのかよくわからないところはあるが、下がるというのはいかにも不自然な感じがする。どのくらいがちょうどいいのかよくわからないので、そこはこれまでの配置校を増やしたときの伸び率などを勘案していただいて、妥当な数字を出していただければいいかなと思うが。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 単純に増えた割合で増えてくることではないだろうとは思う。</p>
<p>東條委員</p>	<p>○ それはそうだ。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 本当にどこで目標設定するかというのはなかなか難しい話だろう。</p>
<p>東條委員</p>	<p>○ 平均的な相談件数というのは、多分これを割り込んでいったら出るわけなので、1人で半日行ったときには平均的にこのくらいなのでこれだけ増えたらというという気がするし、少なくとも下がるのは。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 当面は、相談したいという子がいたら必ず対応して、足りないというのではなく相談受けるよと。体制は充実させていったわけであるから、数が多くても。数に達しなかったからといって努力が足りないという見方もある反面、それだけ一応ハッピーだったという見方も、それは評価の問題になってくるわけだろうが。受けたいのには受けられないというのは一番よくないだろう。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 実数値をどのくらい増やすかというようなことは、さっき根拠も少し示した相談者の数でとかという案も出たので、事務局に数を少し積算してもらい、それを議決後の一部修正ということで、追ってそれを私たちは追認するという事によろしいか。</p>
<p>全委員</p>	<p>○ 〈承認〉</p>
<p>委員長</p>	<p>○ では数字を出して、また報告を。ほかはどうか。</p>
<p>東條委員</p>	<p>○ 29ページの食育事業のスーパー食育スクール事業における成果の普及事業に関してであるが、これはいろいろな測定機器というのを貸し出しして、その装置を使って学校の中で指導できるようにするという事業だというふうに理解しているが、測定機器自体は保健体育課に保管し、申告があった段階で貸し出すということなのか。</p>
<p>審議監 (保健体育担当)</p>	<p>○ 機器自体は保健体育課が所有しているが場所がないので、岡山学校給食センターで保管をしている。校長会とか、中学校の給食指導研究会の研修会などでもこういう貸し付けができる機器と、それからこういう書類をそろえたら貸し付けができるというのを説明して貸し付けをしようと思っている。特に、今回操南中学校でやった成果の部分については、実施報告書と、それを簡単にまとめた1枚物のリーフレットがある。それにあわせて、特に貧血の予防などはこういうことをすればいいのではないかという1枚物のリーフレットもつけて、各学校のほうへ貸し付けをしようと思っている。それについては、4月9日の</p>

<p>委員長 審議監 (保健体育担当)</p>	<p>研修会で説明してもらおうとともに、5月8日の全校の栄養教諭、学校栄養職員の事務説明会でも説明をさせていただこうと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ヘモグロビンの調査をする機器が何台あるのか。 ○ 機器だけで言えば、これは去年のモデル事業で買ったものであり、機器は1台である
<p>委員長 審議監 (保健体育担当)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後はそれをふやすことは可能か。ヘモグロビンを測る機器は高いのか。 ○ ヘモグロビンの機器だけで言うとそんなに高いものではない。ほかに体組成計とかいろいろ機器があるので、そういう機器を使って今回の成果の分をお示ししているので、それらの機器についても同じように貸し出しをしようと思っている。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私たちも操南中の給食を食べさせてもらったときに、科学的な機器や機械類があると子どもたちに一目瞭然という感じがあったので、ぜひそれを貸し出して、活用してほしいと思う。
<p>塩田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 15ページの道徳の時間の充実というところだが、27年度末の目標達成値850人となっているが、例えば教科化が小学校だと2018年なのか、そういういったところに対応できてる人数なのかどうかということなのだが。
<p>指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の時間の充実についてであるが、850人を目標値ということで考えている。これで何とか充実を図っていきたいというふうに思っているので、活用については学校とまた協議しながら進めてまいりたいと思っている。
<p>塩田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ どのぐらいの先生がそれを聞いて、それを学校に広めていくかということがあるかと思うが、それぞれ小学校、中学校で始まったときに間に合う体制ができてくるのかということをお聞きしたかったのだが。
<p>指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後の検討課題というか、学校が困らないように支援してまいりたいと思っている。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ お願いします。 ○ 先ほどの目標値のことで、26年度実績よりも27年度の目標値が下がるという項目が幾つかある。前年度より今年度が下がっているところの考え方というか数値の決め方について、共通項があるのならそれを説明いただきたい。
<p>教育企画総務課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目標値が実績値よりも低いという事業は21あった。そのうち、目標値の検討を再度行い、9つの事業については上方修正をさせていただいている。その他の12の事業になるが、これは最初目標値を設定する際、長期的な視野に立って設定するというところを行っている。基本的には1年ごとの実績値の変動で頻繁に修正していくものではないというふうに考えているので、上方修正することが適当であると思われるものについては、先ほどの9つについてはさせていただいているが、それ以外のものについては最初の目標値を使わせていただいておりますという整理をさせていただいている。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少し奇異な感じがするところがある。教育企画総務課長、数値だけ見ると、そういう背景がわかりにくいかと思うので、このアクションプランを現場に示すときに、今説明したようなことを一言どこかに入れておいたほうが良いと思う。
<p>教育企画総務課長 委員長 教育企画総務課長 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ アクションプランの中にとということか。 ○ 中か、付け紙か何か。 ○ そのように工夫させていただきたいと思う。 ○ 教育委員会の事務局の仕事の横断ということで思ったのは、26ページのESD関連のところのユネスコスクールの推進事業で、26年度の実績値が23%で今年度が60%にすごく飛躍している。これも少ないといえ少ないが。これは学校教育基本計画の中に位置づけている学校があるかどうかというのは。例えばこの場合は指導課が見ているが、学校教育基本計画は提出は何課へ出すのか。
<p>指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程編成表をいただくときに指導課のほうで回収している。

委員長	○ 例えば校長のヒアリングは学事課としているが、学事課へ示すときは、この学校教育基本計画を示すのか。
指導課長	○ 学事課のほうへは、私の記憶が確かであればだが、また別物のシートを学校長が作成して、当初の面談に持っていったと思う。
委員長	○ でも、その学校が例えばE S Dをベースにしているかというようなことは基本計画に出てくるのではないか。
指導課長	○ 出てくる。
委員長	○ 指導課へ提出するのだが、校長が自分の学校のマネジメントをプレゼンするときに、入ってるかどうかというのは全部の課で同じ視点で見たのがいいのではないかと思ったので、聞いた。E S DはE S Dで動き、学校は学校で動くというのではなく、校長のマネジメントのもとがこういうアクションプランや振興計画がベースになっているというのを、色々な課で見あげたほうがいいという気がする。だからそういう意味で、目標値がこんなに低いのは、まだ知らしめているところまでいかないのかと思った。また、指導課主体で願います。
指導課長	○ 今後検討していく。
東條委員	○ 数値のことで確認だが、27ページの中央図書館の子どもの読書活動の推進の実績値と目標値の値はこれでいいのか。26年度は113.8冊なのに27年度は114万冊。これは誤植か何かか。
教育企画総務課長	○ 実績値の113.8の後に万冊が抜けている。これは、訂正させていただく。
委員長	○ アクションプランのアウトプットにしてもアウトカムにしても数値が出てくるので、これをもとにして事業計画を練り直すという必要はあるなどというのが見えやすい。新しい年度が始まったが、来年度の予算取りのときにどういうふうに考えたらいいいのかというのを、子どもの自立を考えていく中で、でこぼこが出てくるかなというところもある。単なるアクションプランで、できたらおしまいではない。しっかり検討していかないとと思う。
奥津委員	○ 44ページの部活動サポート事業、このアウトプットは効果があったと答えた部活動顧問教員の割合になっているが、もともとの部活動サポート事業の趣旨の中に、教員が部活動に時間をとられるので、そこを援助してもらって、その分生徒に向き合っているというような趣旨があったかと思う。アウトプットの指標では、それが余り考慮されていないのではないか。
審議監 (保健体育担当)	○ 指標を何にするか考えたときに、部活動サポート事業の場合は、特に専門外の方が部活動を指導するという精神的な部分がすごく大きいと思っている。その精神的な部分でこういう事業をして、顧問の方の精神的負担の軽減等を含めて、導入した場合の効果があったかなかったかという形で今回指標にさせていただいている。
奥津委員	○ この効果がいろんな意味でとれると思う。生徒に向き合うという時間もあれば、部活動の部員にとってどうかとか。
審議監 (保健体育担当)	○ 結局、精神的な負担がなくなれば、それが反映されて、子どもと向き合うときに余裕ができると考えている。
委員長	○ 私もここは便利がいい言葉だなと思って見せてもらったのだが。事業内容のほうにはちゃんと負担軽減のことで部活動の活性化と両方書いてある。だから、教員にとって、子どもにとって、負担感とか効果とか全部を網羅して効果というのが何かすごくいいように書いてあるが、わかりにくい部分もあるかもしれない。だから、負担軽減が即効果というわけでもないだろうが。事務事業をする中では負担軽減のほうをしっかりと見ていきたいなという気がしている。確かに部活動はもちろん活性化しないといけない。教えられない部を教えるというのはとても苦痛だと思うから、そういうことも含めての負担軽減で効果といえば、本当に効果という言葉は効果的だった。
教育長	○ これが100%ではなく、80%とかになったときには配置がどうだったの

委員長	<p>かということになるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 最後のページの成果指標のところ、アウトカムの現状値に、なかなかすごい数値がいろいろ出ているなという感じがしている。もちろん実績値、目標値あるが、これで岡山市が縦軸と横軸でやろうとしていることのでこぼが見えるという感じがした。このあたりについては、今年度事務事業を遂行していくところにも反映させていけるところはまだあると思う。
教育企画総務課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上から2つ目の政策で、主体的に学び続ける子どもの育成の③の豊かな学習資源を活用した多様な個性の伸長、このあたりがどうもちょっと伸び悩んでいるような感じがするが。この学習資源というのは、イメージ的にはどういうものを指しているのか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校内外の人材活用をしたり、その他さまざまな体験学習などをしたりというあたりで総合的な学力が伸びていると答えた保護者の割合ということで。
指導課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ このあたりが今の地域協働ということや外部の人材活用というふうなことを長くうたってきたが、効果は見えてはいるのだが、まだまだ十分ではないかなという感じがした。今年度、そういう地域協働や小・中連携の関係もあると思うが、少し充実させていきたいと感じた。 ○ 同じページの4建設的な人間関係で、地域の人に挨拶をしている子がどんどん減ってきているような感じがするのは、これはなぜなのか。不審者対応か。 ○ 私が学校にいた実態を踏まえて話をすると、1つは不審者対応も実際あるかと思う。それから、子どもたちのいろんな発達段階に応じて声を出す子、なかなか出しにくくなる世代があるが、逆に地域の大人たちがしっかり声を出せば、子どもたちもだんだん反応するようになって、いい効果が生まれているという事例もある。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ どちらが先かというのはあるが、大人からというのはあるかもしれない。そういうことも本年度少しやっていきたいことかなという気もする。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ○ この事業の中にはあらわれてこないが、市民協働という地域・保護者を巻き込んで何かやっというときに、実際に地域協働学校という中で、この挨拶も、それぞれの学校取り組まれているところがあると思うが、では十分それが効果が上がっているのかというと、本当にイベント的なものが単発的に年間を通して行われているようなケースもあったり、それが本当に保護者などに伝わっているのか、本当に浸透しているのかどうなのかというところはあるだろうと思う。そうすると、横軸、縦軸と言っているが、特に市民協働というところを本当に機能させていくためには、学校としての子どもの実態はどうなのかというあたりをしっかりとオープンな形で出していかれないと、なかなか一緒に取り組もうという形にはならないかなと。これまでも課題であったが、今後の課題でもある。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ そういうことがアクションプランの計画を通じて、見えてくることはあるだろう。
塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単純に比較はできないと思うが、24年度の数字と26年度の実績値を比べると、やはりかなり増えているので、地域が努力しているということを保護者は感じているのではないかなと思うが。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ そういう少しいいことをいろいろ広報の段階で、教育広報紙「こらぼ」で知らせるとか。そういうことに反映させていると、今市がやっというところもわかってもわかってもらえるし効果が上がっていることもわかってもわかってもらえる。
教育企画総務課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ これは決まったら学校園へはデータで出すのか、紙ベースで出すのか。 ○ 紙で出す。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 紙で出すのか。データも示すのか。

<p>教育企画総務課長 委員長 教育企画総務課長 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ データはホームページのほうで見られるので、そちらで見ていただく。 ○ では、市民の方はホームページから見るといふ。 ○ そういふことである。 ○ これを全部見ようという意欲はなかなか湧いてこないかもしれないが。この中のさらにダイジェストというのはできるのか、できないのか。
<p>教育企画総務課長 委員長 教育企画総務課長 委員長 塩田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ダイジェストの部分がクローズアップであるので、これをさらにといふのは少し厳しいかと。 ○ このA4、1枚のところ。 ○ 今後の検討課題と。 ○ わかった。 ○ クローズアップのところを見て、すごくわかりやすいと思った。これを1枚物にするとまたわかりづらくなると思うので、もし取り上げるとしたら、この何ページか、ここのところを、クローズアップのところだけ冊子にしても十分伝わるのではないかと思った。 ○ それから、特に6、7ページの、6ページのほうの現状と課題のところで見えていくと、何か課題は授業力かなというふうにした。だから、これを末端まで十分に先生たちに行き渡るかというのが一番大事なところかなと思う。例えば、こういったものを、このアクションプランを新任の先生方の研修会とかに取り入れていくというふうなことはどうなのか。今までどうだったのか。
<p>教育企画総務課長 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ アクションプランについては、校長会等で説明はしているのだから、校長が学校へ帰った後、教職員の方々に周知を図っていただくという形になるかと思う。 ○ この授業だけで言えば、指導課が去年出した「授業これだけは」には、こういうデータも載っているのか。
<p>審議監(学校教育担当) 指導課長 塩田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ データは載っていない。 ○ データは掲載はしていない。授業のあるべき姿というものを、スタンダードをまとめているので。 ○ どうしてあれが出てきたか、どうしてこれが拡充して徹底してやらなければいけないかということを示すのだったら、やはりこのデータは、こういうことがあるからこうなりましたよというその因果関係というのを説明しないと、いきなりこれとぽんと出されても、これまでやってきてなかったのかというイメージのほうに湧くと思う。
<p>委員長 指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ そのあたりは今後どうなのか。 ○ やっていかないといけないと思う。実際は、それを受けて校長が職員研修等で職員のほうへ徹底を図っているというのがこれまでの実態だと思うので、そこを我々がサポートしながらという形をとりたいたいと思う。
<p>東條委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全く同じところで、いいようにできているが、先生方がそもそも紙で配って読むのかなというふうに思ったりしたので、全部を全ての先生が同じように読むというのは難しいだろうと思うので、今ご指摘あったように、校長のほうからお伝えいただくということをぜひ後押ししていただきたいなと思う。いいプランはできているが、ご存じない先生結構おられる。それは、やっぱり我々もそうであるが、職場にいろいろ印刷物が回ってくるので、見ないでチェックして回すというようなことが現状として実態としてありそうな気がする。もったいないし、いいことを考えているのでぜひお知らせしたいということを徹底してほしいなと思って、全く同じ意見であった。回答は結構である。
<p>奥津委員 指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 岡山っ子学力向上推進チームの新設ということだが、これの陣容は。どんなメンバーとか動きとかは。 ○ 指導課の課長補佐をそれ専属に学力向上の担当の課長補佐ということにしており、あと指導主事が2名と、嘱託の校長OBの方4人チームで構成している。

奥津委員 指導課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ どんな動きをしていくのか。 ○ 差し当たって、今日行われている学力調査、このあたりから、それからこの間も校長会で示したが、学力向上推進事業について、これを順番に遂行していくということで今予定をしているのと、それから今後学力、それから授業づくりについての課題が見えてくると思うので、その課題を分析をするというところ、そして新しいアクションを起こす、そういったことを考えていくチームにしたいと思っている。
奥津委員 指導課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校を回っていったりもするのか。 ○ 4年に1回のいきいき授業というので回っていくのと、それから指導課で学校担当というポジションをつけている。事務分掌プラス中学校区を幾つか分担しているので、その学校担当を窓口にして校長の相談に乗るとか学校の実態を把握するとか、改善についてアドバイスをするとか、そういったことを少し充実させていきたいと思っている。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ○ チームというのはさっきメンバー的にはこういうチームでやってもらうということで、それにさらにプラス補完するものとして、指導教諭がいる。これらも学校現場にいるわけであるから、その学校現場にいる指導教諭の先生に周りの中学校区ぐらいになるか、周辺の学校には出かけていったり指導いただいたり、またセンターの研修会にはその方たちが講師となって授業づくりについて指導していくとか、指導教諭とも一緒になってやっていくというのがメインになってくると思う。
東條委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導教諭の活躍というところはわかった。 ○ いいものができているので、ダイジェストも含めて、ここだけは絶対徹底とか、さらにここはというところを、現場が考えてくれればいいのだが、なかなかそこまで行けないところにはアドバイスをすればいいかと思った。 ○ 8ページのところで今後の課題として、きょうの協議会の中に出ていた資料の不登校やいじめ、暴力行為のところ、小学校と中学校の中1ギャップと言えればいいのか段差が割とはっきり出ているデータが多くあったと思うが、新しい不登校が生産されていくような状況は避けたいので、学校の課題が小学校から中学校に行くときにこういうふうにしなないといけないという、そういうデータもここに載せてもいいかなと思った。今年度はもちろんこのデータでいいが、データをコンパクトに最低限に示そうと思ったら、あれもこれもというわけにはいかないと思うが、今後検討してもらえればと思った。
全委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほかはどうか。 ○ 〈なし〉 ○ では、このアクションプランは一応このまま議決するということでよいか。一部数字の修正は数字を示してもらい、メール会議ということで、これでよいかだけ示していくので、返事をしていただければと思う。
全委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 〈承認〉 ○ 第19号議案は原案どおり可決する。

傍聴の状況		
報 一	道 般	0名 2名